

國學院大學學術情報リポジトリ

報告一 「シブサス」がつなぐもの： 「仕事」として続けるサステナブルな活動

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松嶋, 範行 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001517

《報告一》「シブサス」がつなぐもの

——「仕事」として続けるサステナブルな活動——

松嶋 範行

【松嶋】シブヤサステナブル推進協議会のリーダーの松嶋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私からは、シブサスとは何かということを申し上げるとともに、渋谷区の中でシブサスがどのような活動を展開しているのかについて、ご説明したいと思います。

渋谷区環境基本計画とシブサス（シブヤサステナブル推進協議会）

シブサスは、「シブヤサステナブル推進協議会」の略称で、『渋谷区環境基本計画2023』においては、リーディングプロジェクトの一つとして掲載されております。シブサスは、渋谷区が中心的に何かを進めていくというよりは、持続可能な活動やエコ活動に取り組む区民や事業者、団体、学校等の皆さんが情報共有や交流をしたり、場合によっては連携してパートナーシップを形成していくためのプラットフォームとして機能しているプロジェクトです。

重要なのは、単にエコ活動をするだけではなく、地域ごとの特色を生かす「まちづくり」と連携した取り組みを目指していることです。



シブサスの中心的なメンバー(会員)を見ていきましょう。まず、今回お話をいただく一般社団法人CLEAN & ART(渋谷区などで落書き消しや壁面制作を展開する団体)代表理事の傍嶋賢さん。次に、國學院大學研究開発推進機構客員教授でいらつしやる古沢広祐さん。東京ガスネットワーク株式会社(株式会社東京ガス傘下の事業会社)東京中支店地域広報担当課長の斎藤早央子さん。『恵比寿新聞』(渋谷区恵比寿の地域の情報を発信するWEBマガジン)編集長の高橋賢次さん。NPO法人アーバンファーマーズクラブ(都会の空き地を農地として活用し、新たな都市生活のライフスタイルを育むコミュニティと食の地域拠点を目指す団体)代表理事の小倉崇さん。そして、私の六名がシブヤサステナブル推進協議会を運営するメンバーです。ただ、名前には「協議会」とありますが、決してこの名前のとおりお堅い組織というわけではございません。むしろゆるやかなつながりの中で、いろいろな方々が連携したり、メンバー同士が情報共有をしたりするような、柔軟性のある活動をしております。

これまでのシブサスの活動

ここでは、過去に実施された活動をいくつかご紹介したいと思います。

一つ目は、小学校と企業を結ぶ中間支援組織的な活動です。たとえば、渋谷区立加計塚小学校の五年生を対象に行なった「環境インタビュー」という授業では、環境、特に地球温暖化防止に関してインタビューした上で、全部で十コマの授業を行いました。そのうちの二コマは、渋谷区、パナソニック株式会社、株式会社セブニーレブン・ジャパン、BEAMS(株式会社ビームスホールディングス傘下の事業会社)、Addidas(アディダスジャパン株式会社)、Goridwin(株式会社ゴールドウイン)、東京ガス株式会社にご協力をいただき、小学生がネットを使って、これらの企業によるエコ活動や事業活動について調べ、質問を作り、リモートでインタビューをするという授業でございます。

ほかの授業内容としては、かつて渋谷区がつくった区内の温度高低を可視化した地図を用いて、なぜこのような温度変化が起きるのかについて考えてもらいました。あるいは、加計塚小学校の過去二年分の電気消費量の推移をグラフで見ながら、なぜグラフの線が山あり谷ありなのかを考えていただく学習も行ないました。区内には、人が集まる場所、車が集まる場所、そして緑の多いところがあり、それによって温度が変わりますので、地形とも関連させて温度変化があることを子どもたちが学び、「自分たちの学校をエコにするにはどうしたらいいのだろうか」、「難しいから大人に聞いてみよう」ということを考える授業となっています。

二つ目に、渋谷の実践女子大学の皆さんにご協力をいただき、環境ファシリテーター講座を受けてもらい、小学生が学習を進めていく中でいろいろな悩み、考えるためのお手伝いをしていただきました。ファシリテーターと聞くと、皆さんは難しいと思われるかもしれませんが、そのようなことはありません。ファシリテーターというのは専門家である必要はなく、対象となる方の気持ちを呼び起こすことが主な役割となっています。当然、すべての方が環境に興味があるわけではありませんが、ファシリテーションという方法は、学生の皆さんが社会に出てから、会議やチーム活動などの場に立ったときに役立つかもしれません。このように、地域の環境学習に協力しながら、学生の皆さんの未来設計の一部にも寄与できるのではないかと考えています。

三つ目に、毎週木曜日十一時十分から四十五分間、地域コミュニティF Mの『渋谷のラジオ』(<https://shburadi.com>)で環境アクションやSDGsに関することなどを中心に情報提供のプラットフォームを運営しております。こちらもしブサスの名前で運営しておりますので、パーソナリティーは私が務めております。すでに百三十回を数えるほど放送しております(令和六(二〇二四)年十月現在、「渋谷でサステナブル」のアーカイブには二百二本登録されている)、「継続は力なり」ということで、たくさんの方をゲストにお迎えしております。たとえば、肉乃小路ニクヨ

「ホリプロ所属のタレント、コラムニスト」さんや、行政職員の方にも出演していただいております。また、環境スタートアップ「環境保全、特に気候変動、資源循環、自然共生、環境管理等に資する事業（ビジネス・技術）を行なう企業」の若い社長さんや、渋谷区が実施しているシブヤ若者気候変動会議の小学生のメンバーにもお話をしてもらいました。このように、非常に多彩、多様な方々に環境やSDGsについてお話を聞いております。引き続き放送を実施しておりますので、ラジオに興味があるという方はぜひお声をいただければ、四十五分間、一緒にお話をさせていただきたいと思えます。

そのほか、渋谷区の事業でシブヤ若者気候変動会議（気候変動について若者が意見交換を行なうための渋谷区主催の企画）にも協力させていただいております。令和五（二〇二三）年度の第二回目では、四名の方々に具体的なアクションをしてもらいました。その中の南直弥さん、赤塚由依さん、和嶋志織さんの三名は、十一月に行なわれた「SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA」（多様なテーマについて、国内外の取り組みや研究の成果などを紹介するイベント。令和五（二〇二三）年は、十一月六日～十二日に開催された）で、渋谷区に対して来年度以降に「こんな事業が楽しい、面白いのではないですか」という提案をしていただきました。一方、四人目の渡辺千尋さんには、「渋谷区くみんの広場 ふるさと渋谷フェスティバル」（渋谷区くみんの広場実行委員会の主催する「わが街と誇れる渋谷」の形成を目指して区民と区が一体となっを行なう企画。https://www.shibuya-fes.online/about.html）というお祭りで、渋谷区と連携して、サステナブルな蜜ろうラップ作りを通じた環境啓発を行なっていたきました。

今年度（令和五（二〇二三）年）のシンポジウムのテーマ、「環境問題の見える化」に関するアイデアや取り組みについては、YouTube [https://www.youtube.com/watch?v=LGo7vCrkfgY] でぜひ皆さんにご覧いただければと思います。

環境問題をテーマに仕事をするということ

さて、私は環境啓発を中心に仕事をしております。しかし、環境問題をテーマに仕事をすることについては、「そんなこととして、意味あるの?」と思われることもあります。一生懸命に省エネを訴えたり、「いろいろなエコ活動と一緒にやりましょうよ」と呼びかけたりしても、「そのようなことで地球は変わるのか」というご意見をよく耳にしますし、私自身も、日々自問自答しています。こうした問いを考える際に気をつけなければいけないのが、一つの分野に絞って仕事や研究をすると頭が固まってしまうということです。私は、月の半分は長崎県で小学校の四、五年生に向けて環境教育を行っており、年間五千二百名の皆さんの前で話をさせていただいています。一方、渋谷では、世界の名立たる企業の皆さんの前で現在の環境について、もしくは今後の渋谷のエコ活動について一緒に議論をしています。このように、様々な活動のバランスを取りながら考えていくと物事を俯瞰しやすくなりますし、一生続くであろう先の問いに対しても、自分なりの答えを見つけることができるのではないかと考えております。

私からのお話は以上となります。ありがとうございました。